SEE YOU NEXT ISSUE
SUMMER 2020

各商品のご注文はメールでお問い合わせください。 zgoods@o-smi.co.jp

FSC® 森林認証紙、ノン VOCインキ(石油系溶剤 0%)など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生するCO_2全てをカーボンオフセット(相殺)した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009309

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

GREEN PRINTING JFPI P-B10164

CARBON OFF SET

VOC FREE™

Zero Carbon Printed in Yokohama【協力 / 株式会社大川印刷】

ZERO CHRONICLE ISSUE #1 ゼロ・クロニクル | JAPAN ISSUE #1 定価 475 円（税込）

発行 株式会社オオスミ ゼロクログッズ販売部 〒246-0008 神奈川県横浜市瀬谷区五貫目町 20-17

ZERO CHRONICLE

ISSUE #1
WINTER 2019

すこぶるサステイナブル 今こそ台湾から学びたい！

PICK UP 1
GOGORO
O'RIGHT
GREENVINES
UNPACKAGED.U
FROM TAIWAN ... and more

PICK UP 2
OHKAWA PRINTING
YONAGO FASHION BUSINESS ACADEMY
YOSUKE OMORI
HAKKOH ... and more

日本の脱・プラとゼロ・ウェイストに貢献したい
Encouraging Zero Waste & Less Plastic

HELLO FROM
CO-EDITORS IN CHIEF

編集長からのごあいさつ

「行動すれば間に合う」と信じる人を増やしたい

「社会的証明の原理」といわれるものでは、人がどうあるべきか迷うときに重視するのは、ほかの人々が何を信じているか？ どのように行動しているかだと定義されています。環境に対してもそれは同じで、「何とかしなければ」、「行動すれば間に合う」と信じて行動する人がもっともっと増え、あるしきい値（スレッショルド）を超えれば、爆発的にコトが進んでいくのではないかと考えます。小さな会社の発信としての「ゼロ・クロニクル」ですが、そんな世界を動かす行動に寄与できたら嬉しいです。

大角編集長が実践する『居酒屋クレド』！
楽しく食事をしながらでもできるエコ配慮。
みなさんもぜひ、この「行動」を！

1. **脱プラスチック！** ストロー使わないのが今ナウい。
2. **ミニマム醤油！** 洗う水・流れる汚水まで考える。
3. **フードロスは悪！** 残さず食べるが一番のエコ活動。
4. **フードマイレージ！** 近めの食材でCO2と経済に貢献。
5. **NO紙ナプキンに挑戦！** 自前のハンカチ等を使い神対応。
6. **店員さん越えの愛想！** 地球の前に人にフレンドリーに。

TAKESHI OSUMI
OSUMI CEO | CHIEF EDITOR FOR ZERO CHRONICLE

台湾の市民レベルのエコ意識 日本の皆さまに感じてほしい

「日本は兄弟だから…」、台湾の方々は私によくこう話してくれます。災害時に互いに手を差し伸べる関係は、まさに！ でも、私は今後エコ活動を市民レベル・中小企業レベルで競い合う兄弟でもありたいと思います。仕事の1/3を台湾で行う私の見立てでは現在軍配は台湾。今回の『ゼロクロ』で感じて貰えたら嬉しいです。

RYUSUKE MURAO
BIZ BOOK AUTHOR | CHIEF EDITOR FOR ZERO-CHRO

DIGITAL GIVE AWAY FOR YOU

もれなくもらえる読者ギフト FOR EVERYONE

ZERO CHRONICLE
One-way is No way!
I'm against "one-way plastic."

イラストレータのデータをダウンロードすれば、
あなたの会社やお店の名前に変えて使えます。

"脱・プラ思考"を広げたい 行き着いたのがデザイン性

One-Way is No Way! は『使い捨てなんてありえない！』という意味。これは様々な場面において思うことではあるが、特に日本のコンビニ袋やレジ袋はめちゃくちゃ過剰包装！ 何も言わずとも必ず袋に入れてくれますしスーパーでは会計時に袋を多めにカゴに入れてくれるのも日常茶飯事です。一時期「流行った」エコバッグもほぼ使われていない状況。あらためてそのエコバッグにこのワッペンをつくって貼ってほしいです。『ゼロ・クロニクル』から読者の皆さんへのプレゼント。ワッペンそのものではなく、ワッペンでもステッカーでも缶バッジでもなんでも作れるデータ自体をお渡しします。あなたの会社の社名や店名を入れるもOK！ 色を変えて使うのもOKです。I'm against "one-way plastic."（私は「使い捨てプラ製品」に反対です）というメッセージも入っています。ぜひ、"脱・プラ思考"の拡散に使ってください。

#1

左のQRコードから、ダウンロードページへアクセスしてください。
どなたでもデータをダウンロードすることができます。
これまでのアーカイブもぜひご利用ください。

注）Adobe社のグラフィックソフト「Illustrator」がないと編集ができません。

ステッカーをつくるなら！
アドプリント
www.adprint.com
（参考）1,000枚製作で 8,000円くらい

ワッペンをつくるなら！
ジャヌー2
www.janu-2.com
（参考）10枚製作で 10,000円くらい

缶バッジをつくるなら！
SECONDPRESS
www.secondpress.us
（参考）100個で 4,000〜5,000円くらい

ワッペンにして普段使いのバッグ等につけてもOK！

ゼロクロオリジナルアイテムでも各サイズを展開中！

缶バッジにしてバッグにつけたり、ノベルティにも！

PICK UP 1

ECO フレンドリーでは遅い…
必要なのは ECO インパクト！

FROM TAIWAN

#006 Gogoro

瞬く間に台湾の社会に浸透
電動スクーターの新ブランド

「電動スクーターは以前からありました。でも、これまで社会に浸透したとか、トレンドになったとは言い難い…」と、ヤンさん。ここは〈GOGORO〉。2011年生まれと最近だけど、台湾人なら誰もが知っている電動スクーターの新しいブランド。クールなスクーターのデザイン（ゴゴロを販売する専用ディーラーのデザインも含め）から瞬く間に人気を博し、街を見渡してもそのシェアが高いのは観光客にも理解できます。でも、ここで『なるほど。デザイン性高い電動スクーターで急成長の会社なんだな』は早合点。その本質をヤンさんは「ゴゴロはスクーターメーカーではありません。うちはスマートエネルギー企業です」といいます。テスラと違い電動といっても家や施設でプラグインしての充電は行いません。「台湾のスクーターが街で隙間なく停められている状態を見てください。プラグイン型の充電なんて、とてもできませんよ」とヤンさんは笑います。

スクーター会社ではなく
スマートエネルギー企業

コンセプトは「6秒チャージ」。充電をするのではなく〈GOGOROステーション〉と呼ばれる街中にある、これまたクールで無人なバッテリ置き場で交換をするのです。自分の手で！ 6秒で！ そのデザインから怖さも難しさも感じられません。24時間稼働していてコンビニ等にもあります。「約1500のゴゴロステーションがあり、台湾全土の8割をカバー。3キロ圏内、もしくは5分以内のエリアに必ずあるという状態です」とヤンさん。バッテリの数でいえば、およそ1万5千個。それを台湾人全員でシェアしている感覚です。「私たちは世界一のバッテリのプラットフォームを有する会社となりました」。サラッといいますが忘れてならないのは、この会社は生まれたてということ。凄まじいスピードですが、考えてみれば当たり前。地球を救うエコ関連のことは急がないといけない。「エコフレンドリーでは、もう遅い。私たちはエコインパクトを与えたいのです」

Gogoro 睿能創意股份有限公司

桃園市龜山區大華里頂湖路 33 號

https://www.gogoro.com

PICK UP 2

世界最先端の環境発想！台湾・桃園に見学者殺到

FROM TAIWAN

#007 O'right

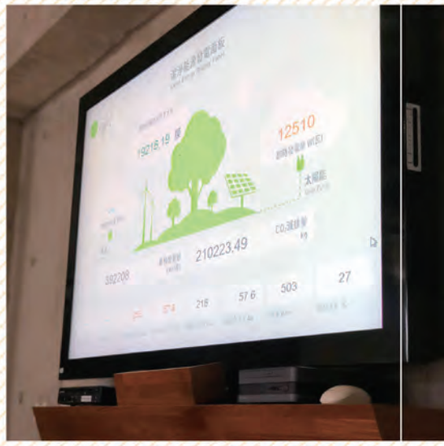
見た目も温度もクールな職場 グリーンヘッドクオーターは手本

とても800字では語り尽くせない！ 世界の優良企業や大学関係者が見学に訪れる、この会社は〈O'right〉。元々サロン向けシャンプーで台湾シェアNo.1の企業ですが、近年BtoCの事業も展開。コレド室町への出店で日本にも上陸を果たしました。その哲学とアイデア、職場とスタッフの姿勢は環境保全の手本。その徹底力を紹介してくれたのはディックさんですが初対面なのに名刺はなし。スマホを互いにかざして“つながる”という完全なる全社員のペーパー（名刺）レスを実践しているからです。でも、ディックさん…「実は僕だけ日本進出の際に、しかたなく名刺をつくったんです（笑）」と教えてくれました。日本人としては（苦笑）。暑い台湾なのに冷房はゼロ。屋上の雨水を建物の上から流す＋地域の風向きを完全に計算し、温度も見た目もクールな職場づくりをRE100で実現。「ここをグリーンヘッドクオーター（緑の本社）と呼んでいます」

環境について考えるとは？ 考えさせられる、この「考え方」

その本社で働く社員の机にはデスク毎に電源が…。残業する人の机のライトとPCだけに電気を通すという考えです。階段の電灯も最小限で足元を照らすのみ。「階段に人が常にいるわけではないですからね」とディックさん。トイレを借りたら手を洗う水もペダルを踏んで出すタイプ。「これらの活動の結果は食堂に表しています」と指さす看板には『今日は何本の木を救ったか』の表示が。CO2の排出量とかでは難解なのでエコ活動の単位を“救った木の数”にしているそう。CO2といえばシャンプー会社としてシャワーで使うお湯を沸かすエネルギーにまで議論が及ぶオーライト。結果、「ゆすぎの時間が少なくて済むシャンプー類をつくる」というアイデアに辿り着いたと。で、「そのボトルですが、私たちのものは外に捨てても6〜8カ月で土に還ります。ボトルの下部には植物のタネが入っています。捨てたゴミから木が生えるというアイデアです」。素敵すぎます！

節能關燈



O'right 歐萊德國際股份有限公司

桃園市龍潭區中豐路高平段18號
Tel：+886-3-4116789
Fax：+886-3-4116779

https://www.oright.com.tw

PICK UP 3

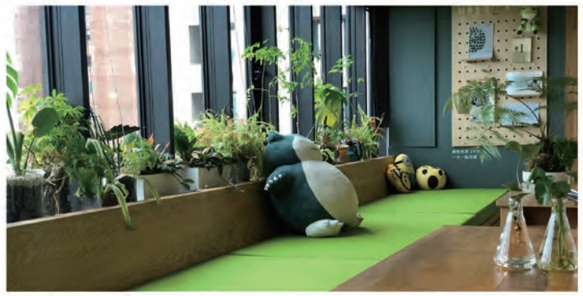
コスメ業界のパタゴニア 商品も職場も徹底して環境重視

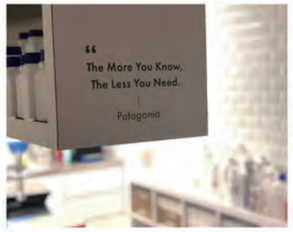
FROM TAIWAN

#008 Greenvines

キーワードは「透明性」 必要ないなら買わないで！

透明性。コスメ界で輝く〈GREENVINES〉という会社を表現するなら、これがぴったり。シャンプー等もなるべく少ない種類の成分でつくることを良しとし、とことん“自然”を重視。「それが自然環境にもいいわけだし当然肌にも。ローションなんて本当はつけない方がいい。うちは『必要ないコスメは、なるべく買わないでください』ってキャンペーンをやっているくらいです（笑）」と一般的なコスメ会社と真逆な発想を次々語る代表のハリスさん。ＭＩＴ卒で商品同様にピュア、会えば誰もが即ファンになる雰囲気の持ち主です。近年、世界規模でネット上のバーゲン日となった１１月のブラックフライデーにも賛成できないと逆に会社を休みに。台湾の各地にショップもあるけど「初めてのお客さまには買う数に制限を設けさせて頂いています。気に入って頂けたら、またどうぞという姿勢です」。「シンプル」「誠実」そして「レス」。全てが気持ちいい会社です。





透明な会社の職場環境 見習うべきオフィスづくり

気持ちいい話から職場環境へ…。この取材が行われている会議室もガラス張り。透明性の表現です。え？ そんな会議室は日本にもある？ が、居心地のよさは段違いです。「うちは最適な酸素量を保つ仕組を取り入れています」とハリスさん。オフィス入口の壁は緑化されていますが、それも適正な湿度を見たり触ったりして感じられるようにとのこと。職場自体に哲学を反映するのは日本の多くの経営者の苦手分野。ここは大いに学びたいところ。「うちでは会社として出すゴミの量を週単位で決めています。オーバーしてしまったら反省会を行います」と、さらにハリスさん。ゴミを集めるキッチン部分を見せて貰うと容器が並んでいます。「社員がランチを買いに外に行くときに持っていく容器です。お店から新しいものは貰いません」と、ここも徹底。ちなみに容器を洗う洗剤の代わりに置いてあるのは同社のシャンプー。「ピュアだから、それで食器も洗えます」。さすが！

Greenvines 綠藤生機

106 台北市大安區敦化南路二段 77 號
Tel：0800-076-688

info@greenvines.com.tw
https://www.greenvines.com.tw

PICK UP 4

世界に広がる食材店の原点回帰 台湾にも誕生した無梱包スーパー

FROM TAIWAN

#009 unpackaged.U

容器を持参しないと買えない！？ そんなスーパーのお客さま層とは

台湾の街並みや暮らしを紹介する映像として、日本のＴＶ番組などでよく目にするもの…。それは隙間なくスクーターで通勤するラッシュ時の様子。特に橋での信号待ちのシーンを観たことがある人も多いのでは？ あれは台北のベッドタウンである新北市と多くの人の職場がある台北市の間…ゆえのあの混雑ぶりです。新北市は若い世代の家族が暮らす地として人気。若い世代だからこそ、そこには多くのエコ意識が高い市民が暮らしています。「マンションが多いのも、このエリアの特徴です」とオーナーの黄さん。やはりドクターのご家庭や教育関連の職に就かれている方がお客さまとして多いのですかという問いには、「大卒で意識が高い主婦の方が多いですね」との回答。エコアクションはベッドタウンに住む、若く学歴が高い家族から始まるの法則は、日本でも参考になりますね。「あ、でも台北市からも最近はお買い物にいらっしゃいます」

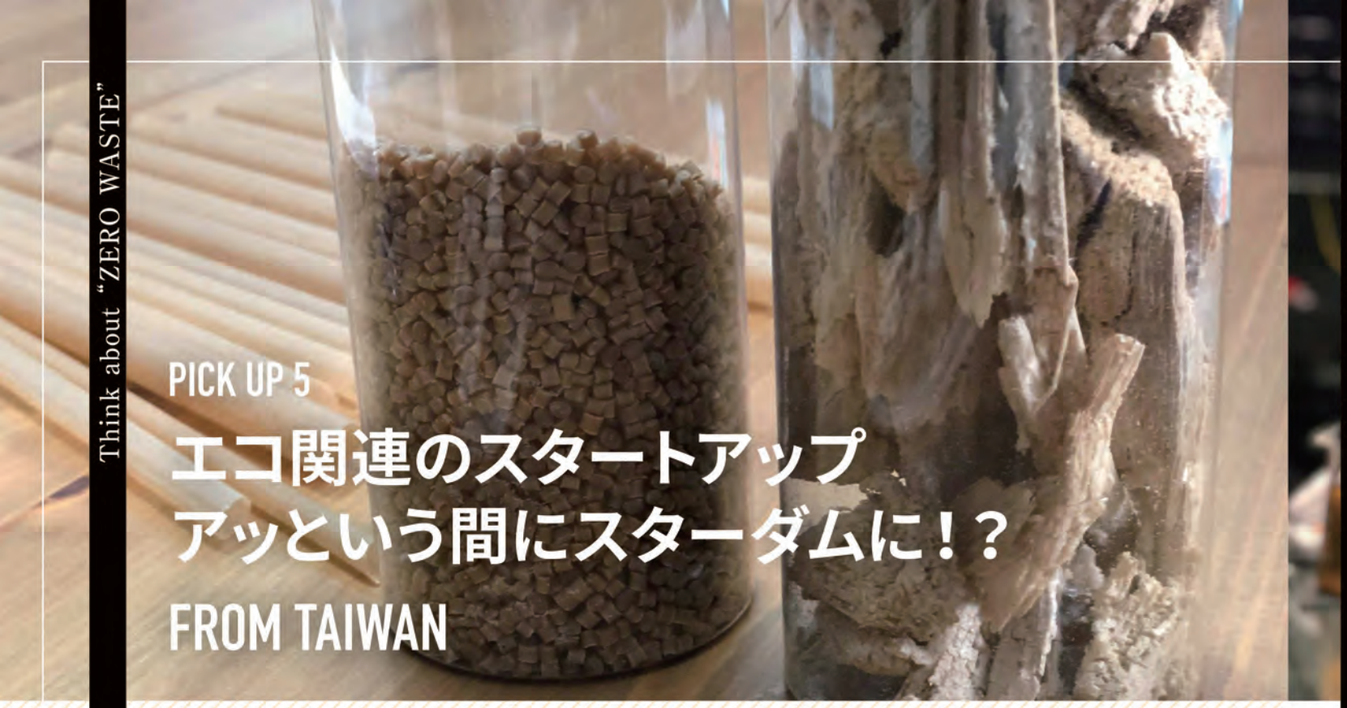
台湾ならではの広がり方… その理由は日本と異なる〇〇文化

店名はコンセプトそのままの〈unpackaged〉。パッケージに入った食材はショップ内には皆無。容器を家から持ってきて必要な量だけ取って測って購入をします。本誌では前回もベルリンの同じようなお店を紹介しましたが、こうして世界に無梱包のスーパーが広がりつつあるのが伝われば嬉しいです。いや、お店って昔はこうだったはずですから原点回帰しているともいえるかも。「おかげ様でメディアの取材も多く開店して2年経ちますが、近く軌道に乗りそうです」。意識高い人がクチコミし類トモ的な仲間を連れてくるという広がり方。教育にいいと子どもを連れてくるという広がり方。「が、一番はフードロスです。台湾は超外食文化。家庭で料理をすることが少ないから食材を無駄にしたくない。必要な量だけ買いたいというニーズからの広がりも多いです」と興味深い背景も聞くことができました。日台で応援したい素敵なお店。台湾へのご旅行の際に、ぜひ。

unpackaged.U 商店

新北市三重區貴陽街16號1樓
Tel：(02) 8985 2898

http://unpackaged.tw



PICK UP 5

エコ関連のスタートアップ アッという間にスターダムに！？

FROM TAIWAN

#010 PFTA

日本も見習いたいエコでの起業 ストローの脱プラに早くから着目

亀の鼻に刺さったプラ製のストローの映像を発端に、世界中でプラ製ストローを廃止する動きが加速。台湾では2019年7月に大型飲食店での使い捨てプラ製ストローの提供が禁止、2030年には全面禁止の予定。エコベンチャー〈PFTA〉が開発したのはさとうきびでできたストロー。少しざらっとしているがくわえるとしっかりとした弾力。土に置いておけば3か月で生分解し、燃やしてもカラメルのような美味しい香りがします。インタビューは開発中の新商品コーヒーからつくるストローのテストルームで実施。コーヒーの香り漂う中、ビジネス・マネジャーのロイさんが想いを語ってくれました。

世界を見据える台湾エコベンチャー 強いエコ意識とスピード感

「エコストローは鉄や竹が多く、洗うのが面倒なうえに、喉に刺さると危ない。もっと気軽に使える、でも環境にやさしいストローをつくりたかったんです」主力商品はさとうきびの絞りカスでんぷんから出来ているPLA（ポリ乳酸）の使い捨てストロー。販売をスタートして1年。すでに海外の展示会に出展し、アフリカ、アジア、アメリカ、ヨーロッパと、世界中の企業にリーチしています。タピオカブームの日本。台湾のエコ文化とスピード感も見習ってエコストローも広がって欲しいところ！

PFTA 台灣先盟股份有限公司

台北市文山區羅斯福路六段 148 號 2 樓

twpfta.888888@gmail.com　https://www.pfta-bloc.com

PICK UP 6

タイワンツキノワグマを守れ！ “ 種の保存 ” という環境貢献

FROM TAIWAN

#011 deya

エコに特化したバッグを展開 環境貢献を自社のアイデンティティに

自らが生み出した商品の数々の受賞歴を誇らしげにみせてくれたのは台湾のバッグメーカー〈deya〉の代表デヤさん。OEM大国台湾で国内外のバッグブランドOEM生産を長年手がけてきましたが、自らのブランド〈deya〉を立ち上げたときに行き詰ったのがそのブランドアイデンティティ。「現在はペットボトルのリサイクル素材の生地を使ったバッグや希少動物の保護を訴える商品など、環境への貢献を軸にした商品を展開しています」

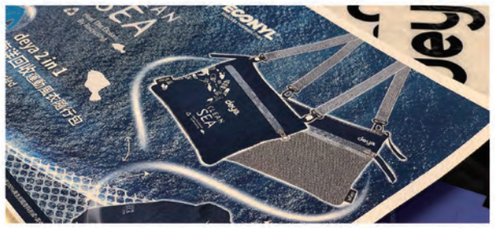
タイワンツキノワグマキャンペーンが話題に 生態系保護の重要性を世界に伝えたい

ブレイクのきっかけは、タイワンツキノワグマの保護を訴える「光点熊」シリーズ。売上の1％を台湾黒熊保育協会に寄付しています。大々的なキャンペーンをうち、若者世代の反響を呼びました。「環境と言っても取り組む範囲は膨大にあります。私たちは希少動物の保護から取組み始めました。きっとみなさんの地域にも守るべき動物はいるはずです」環境問題は大切。とはいえどこから取り組めばいいのか分からない。そんな企業は地元の稀少動物に注目してみるのも一案です。

deya 品卓企業股份有限公司

台北市 114 內湖區瑞光路 583 巷 21 號 5 樓之 6

https://www.deya.tw



カナダのサステイナブルな選択 環境のためにベジタリアンになる

プラスチックやゴミをゼロに近づける活動をしている世界のヒーローたちを「ゼロ・ヒーロー」と呼びたいです。世界中を日々飛びまわる編集長村尾隆介が出会った外国人とのトークセッション。お楽しみください。

DISCUSSION with ZERO HERO
ゼロ・ウェイスト対談
第1回

Special Guest

世界を旅するプログラマー
デール・ハミルトン

カナダ・トロント出身で世界を旅しながら仕事をするノマド系プログラマー。恋人・ギャビィと日本に滞在した数カ月の間に村尾隆介と新幹線の中で出逢う。以来、何度も習い事や観光を共にし、親交を深める。環境保全にも熱心なベジタリアン。村尾隆介にその観点から食生活を変えることをすすめる。現在はバンクーバー在住。

×

Chief Editor

ビジネス書のベストセラー作家
村 尾 隆 介

中小企業のブランディングを日本で当たり前のものにした、その世界の第一人者。国内外で約20冊の書籍をリリース。近著に『できる社長は人が採れない（日経BP）』。ワールドワイドにクライアントを抱え年間300日を超える出張生活をこなす。社会問題に熱心に取り組みオオスミ社と共に『ゼロクロニクル』を起ち上げる。

カナダ人の友人がキッカケで村尾隆介がベジタリアンに！？

村尾隆介（以下 -Ryu）：久しぶりだね、デール。デールに出逢ってから僕もベジタリアンになったよ。

デール・ハミルトン（以下 -Dale）：もう1年になるね。ギャビィ（彼女）と僕でRyuのベジタリアン化は嬉しいねって話してたところだよ。

R y u：日本の新幹線の中で、たまたま隣に座ることになって観光から環境の話になったのがキッカケだね。カナダでは環境保全の観点からベジタリアンになる人が多いという話を聞いて…。

D a l e：年齢でいえば18歳〜35歳くらいの若い世代。その動きは加速していると思うよ。

R y u：その間、日本では環境大臣が「毎日ステーキ食べたい」って国際会議の滞在先で発言し、まだまだそのベジタリアン化のムーブメントは知られていないな。

D a l e：実際、僕らが日本に滞在した数カ月、本当にベジタリアンのメニューやお店を探すのには苦労したから。

R y u：プラスチックのストローはデールたちが帰国してから、急速に紙やプラントベース（植物由来）に変わりつつあるよ。

D a l e：そうそう、カナダではRyuのような人をベジタリアンではなく最近は『プラントベースト・ダイエット（DIET=食生活）』って呼ぶんだよ。

すべてを植物由来にスイッチ中それが今世界で起こっていること

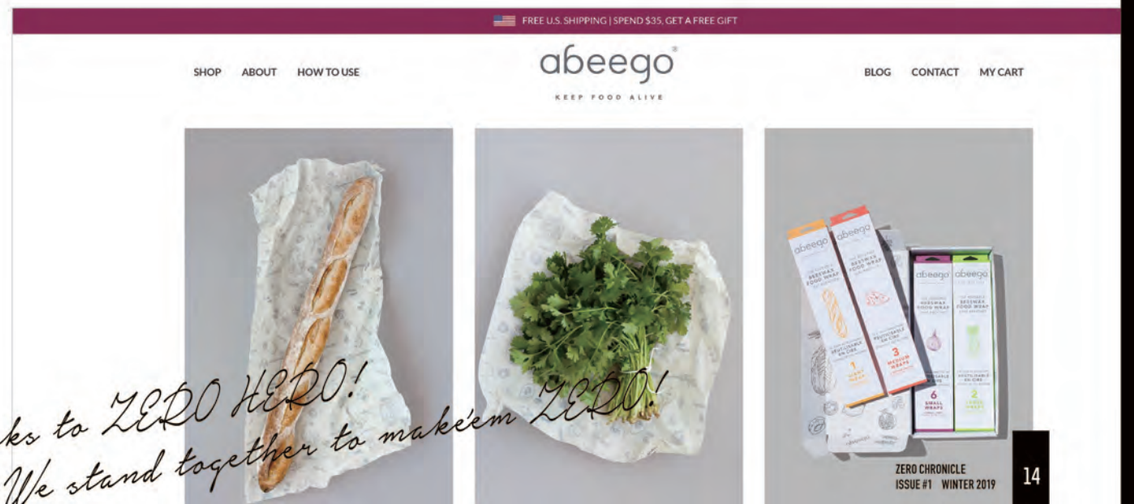
R y u：『植物性由来の食生活』ということだね。完全なベジではなく「主に」が肝。僕も海外出張中は“肉食OK”にしてるから、まさにそれ。

D a l e：それだとハードル下がるでしょ。サステイナビリティのために植物中心の食生活にするわけだから、多くの人が取り組める気軽さがないと。

R y u：世界人口が爆増の中で肉食は効率悪いし、地球へのインパクトも悪。僕は世界で何が起きているのかを日本に伝える立場にいるから率先してやっているけど、この1年、僕のまわりで共感して始めた人はいない。日本は食が豊かで、皆それをエンジョイしている。食は日本でレジャーだから今後もスイッチは難しいかも。

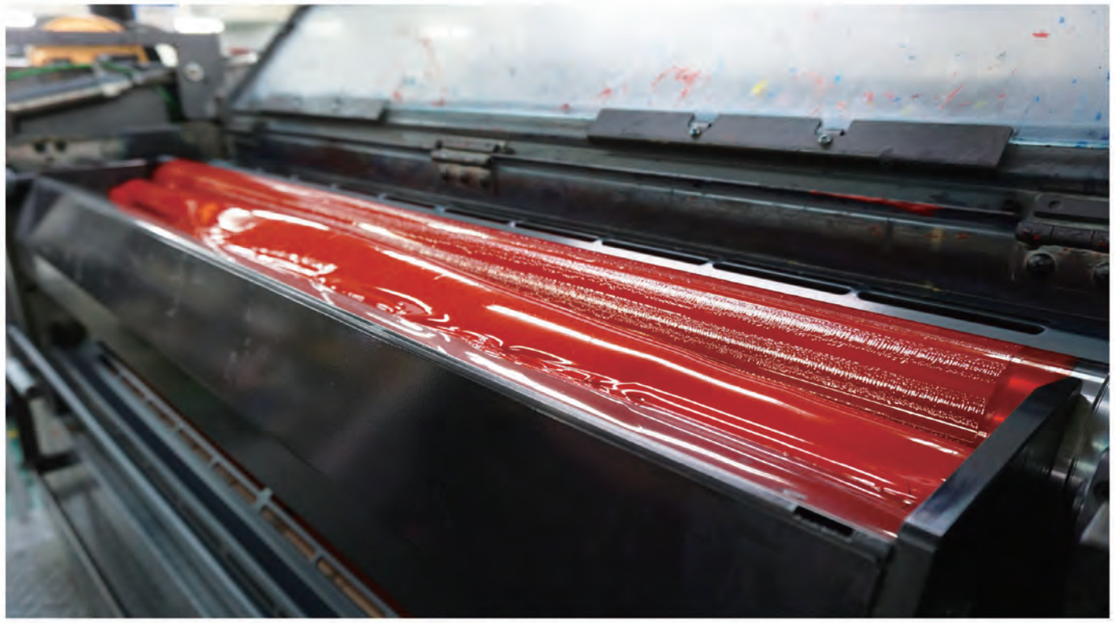
D a l e：食品がらみでいえばカナダでは今ラップ紙も問題視され環境に優しいものにスイッチ中。みつろうでできたものを皆選ぶよ。このサイトを見て！ こんな感じの…。

R y u：（「https://abeego.com/」を見て）超クールじゃん！



WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業 大川印刷（神奈川）



自販機からペットボトルをなくす ▶ マイボトル使用率アップ

SDGsプロジェクトから発案された、プラごみゼロ運動『自動販売機からペットボトルを廃止しよう』。これは中小企業のSDGsを語る上で欠かせない存在であるSDGs先駆者大川印刷の取組みのひとつ！「自動販売機のラインナップを缶だけにすると、お茶お水の提供ができなくなってしまいましたが、自分たちの利便性だけを求めるのではなく、マイボトルを持ってくるひと手間かけるというところを大事に考えました。」と語る製造部の佐藤さんと品質保証部の草間さん。これを機に、マイボトルを持ってくる人が増えたそう。他にも、2か月に1回車で来ない日をつくり、いつもと違う景色を撮影したフォトコンテストを行う『ノーカーデーフォトコンテスト』や、持ち寄った賞味期限切れ間近の食品をみなで調理するという『サルベージパーティ』も行っている。印刷インキ石油系溶剤使用ゼロ、印刷電力CO2排出量ゼロを達成し、環境にも人にもやさしい活動に取組みと常にアイデアにあふれる素敵な会社です。横浜にある1881年創業の大川印刷、今後も目が離せません。

株式会社 大川印刷

本社・工場

245-0053
横浜市戸塚区上矢部町2053

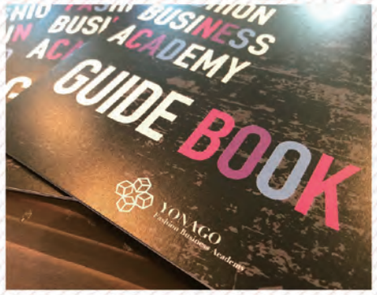
045-812-1131

https://www.ohkawa-inc.co.jp

WASTE（ゴミや無駄）をゼロに近づける企業のアイデアをシェア。全国の会社が「うちも負けない」と、いい意味で競うことを願って。

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業 米子ファッションビジネス学園（鳥取）



捨ててしまう古いロッカー ▶ マットブラック塗装で再生

鳥取県米子市で２０２０年に開校する新しい学校＜米子ファッションビジネス学園＞。元々は花嫁修行のための料理・裁縫・お茶等のお作法を学べる学校でしたが、時代に合わせてファッション＋ビジネスを時代に合った授業スタイルや全国から第一線で活躍する人たちを講師として集めた新しい学校です。キャンパス等も「できるかぎり再利用する」という手法でリフォーム。とはいっても、県内1カッコよくお洒落な学校に！そこで注目すべきポイントのひとつは、古いロッカーです。ネズミ色の古いロッカーは、古い建物にはほぼ必ずありますが、処分するにも結構コストがかかりますし、なによりも廃材がたくさん生まれてしまいます。こういった家具類は壊れていないかぎり再生させて再利用するのが今の時代はスマート！ 方法は簡単です。マットブラックで塗装してカッティングシートでメッセージを貼ったらこんなにカッコよくなるんです。ちなみに写真に写っている教室も、床は床材を剥がしただけ。天井も黒で塗装しただけ。黒板も枠を付け替えただけです。

米子ファッションビジネス学園

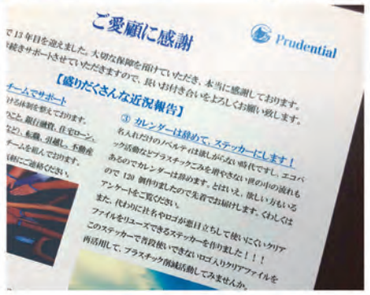
683-0824
鳥取県米子市久米町239

0859-21-0203

www.yfba.jp

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業　大森洋介さん / プルデンシャル生命（東京）



※昨年まで配布していた名入れカレンダー

年末のカレンダー配り ▶ クリアファイルのリサイクル

昔からビジネス界で年末に必ず配っているのがいわゆる「名入れカレンダー」。壁掛け、卓上など、各取引先からもらって集まるカレンダーの数は山のよう。会社の各部屋に貼っても大量に余ってしまう現状・・・。環境という観点で言えば、これは非常に無駄。使われないカレンダーを作るのをみんながやめたら、どれほどの紙の節約になるのか？そんな中、プルデンシャル生命で活躍中の大森洋介さんは「カレンダーじまい」を宣言。環境意識がとても高い彼は、もうひとつの問題である「クリアファイル」にも着目。生命保険の仕事においては資料や契約書等でクリアファイルは山ほど使うアイテム。しかし、会社名やロゴが悪目立ちしていてリユーズできるものは皆無。クリアファイルはリユーズされた方が、少なからずプラ削減に貢献してくれるはずです。大森さんはこの２つを組み合わせて、今年から「カレンダーじまい」＆「クリアファイルリユーズ」を、個人的にコストを負担して決行！ これは素晴らしい取り組みであり、業種関係なく社会人としてとても誇らしい選択！

大森洋介
プルデンシャル生命保険
首都圏第八支社

大学院卒業後、リクルートグループに入社。不動産情報誌の制作を経て、近い距離感でお客様に感謝され、自分を試せる世界を求めてプルデンシャルに入社。現在30社以上の法人および400世帯以上の個人のお客様をサポート。また、主催の大森会も 900人規模のコミュニティとなり、経営から子育てまで幅広い内容のセミナーを実施。参加者にとって生涯学習と生涯人脈を生み出せる会を目指して活動中。

101-0054
東京都千代田区神田錦町3-22 テラススクエア 6F
090-7403-3404
yosuke.ohmori@prudential.co.jp

WASTE（ゴミや無駄）をゼロに近づける企業のアイデアをシェア。全国の会社が「うちも負けない」と、いい意味で競うことを願って。

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業　八光建設株式会社（福島）

毎年恒例の感謝祭 ▶ エコイベント化＆食器はすべてリユース

福島県郡山を拠点にする建設会社〈八光建設〉。地域に欠かせない存在となるべく、ここ数年にわたり会社の価値を高めるための取り組みを数多く行っています。地元の学生向けに返済不要の奨学金を立ち上げるなど、社会貢献活動にも積極的。八光建設は、地域の方への感謝として、毎年１１月に感謝祭を行っています。これまで“ お祭り ”的な色の強かったイベントを、今年は大きく変化させました。今年のテーマは〈不用品の回収＆リメイク〉。不用品を再び使えるものに変えるワークショップをメインイベントにし、楽しみながらエコを体感できる仕掛けに。自分たちのイベント運営も見直し、食事に使うのはすべてリユース食器に変えました。従来型のイベントに少しエコ要素を加えるだけでイベントもそれに携わるスタッフの意識も大きく変わります。「ゴミはもちろん圧倒的に減りましたし、私たち自身がイベントのあり方を見直すとてもいい機会になりました」ブランドマネジャーの高橋邦明さんもその影響力を実感しています。

八光建設株式会社
963-8026
福島県郡山市並木1丁目1-11
024-922-8553
https://hk-const.com

MOMENT FOR DOCUMENT

ECO FILM REVIEWS

環境ドキュメント映画がいちばんの学び

オオスミ社では社員がセミナーがわりに環境に関するドキュメント映画を観ます。オンデマンドでいつでも観れるいい時代。ぜひ次回の出張時のお供に。

『CHASING ICE』
2012／アメリカ／76min

Reviewer
大角武志
TAKESHI OSUMI

気候変動に対する答えは私たちが持っている

2014年にはエミー賞を受賞しているドキュメンタリー映画。写真家のジェフが長期に渡り氷河の後退を微速度撮影（タイムラプス）したものですが、その映像は気候変動の事実を客観的・科学的な“証拠”として人類に突き付けていくものとなります。『温暖化は嘘だ』、『科学的証拠はない』、などといった言葉を発する人たちがいる一方で、今まで気候変動を証明できなかったことも事実。この“事実”を直視するかどうかは人それぞれです。しかし、皆さんには是非観て、語り合い、今できる行動は何か？ を一緒に考えていきたいと強く願います。何故なら、その答えを持っているのは、政治家でもなく、科学者でもなく、私たちなのだから。

『Our Planet 私たちの地球』
2019／イギリス／48min

Reviewer
米田善治
YOSHIHARU YONEDA

行動を起こせばまだまだ救える生態系バランス

全海洋面積の僅か10%である浅瀬の沿岸地域に海洋生物の90%が集まる。日光が海底にまで届き植物が豊富だからだ。その多種類の生物が、かつての乱獲、近年の気候変動による海水温上昇で生態系バランスが崩れ、絶滅の危機に瀕している。一方、海洋の回復力は想像以上に強く機会を与えれば元の姿に戻るケースも多くみられる。今こそ、世界が一つになって行動を起こす時であり、そうすればまだまだ海洋環境を持続的に改善していける。

『プラスチック・チャイナ』
2016／中国／50min

Reviewer
中野　諒
RYO NAKANO

世界中で起こっている家族の問題

この映画は、学生時代に講義の中でディスカッションのテーマとして観賞しました。つい最近まで中国は日本をはじめとする先進国が排出するプラスチックゴミを輸入していました。そのプラスチックゴミのリサイクル工場を営むとある家族の現状を描いた作品です。児童労働や貧困、学校に通えないなどの問題はそれぞれ個別の問題ではなく、深く関連していて連鎖していることに初めて気づかされました。何とかしなければと率直に思いました。これは中国のある家庭の話ですが、対岸の火事ではありません。一つの地球で起きている事実であり、助け合って解決していかなければなりません。

『東京&ニューヨークの小学生からのメッセージ』
2017／日本・アメリカ／30min

Reviewer
鈴木典子
NORIKO SUZUKI

恥ずかしい大人になっていないか？ を考えさせられるショートムービー

東京都とニューヨーク市の小学４年生の生徒たちが海ごみについて学び、実際に川へ街へと飛び出して実際にごみの実態を調査し、行動するドキュメント映画。「子供だって地球を良くして行けるんだ」いうコメントが印象的。私はそんな子供たちから「地球を守れない恥ずかしい大人」とみなされていないか。小さなことでも行動することの大切さを学べるショートムービー。

『ザ・トゥルー・コスト』
2015／アメリカ／92min

Reviewer
西村彩香
AYAKA NISHIMURA

服に対して本当のコストを支払っているのは誰か？

石油業界に次いで世界で二番目に環境を汚染しているとされるファッション業界の様々な問題に迫った作品。安価な衣服を作るため、劣悪な環境、低賃金で働かされ搾取される人々、有害なガスを放出し200年以上も地上に残り続ける先進国より寄付され捨てられた衣服の山。ただ安いからという理由で商品を選ぶことが、見えないところでどれだけの悪影響を及ぼしているかを知り、改めて自分の消費行動について考えなければならないと感じた。

#001 TRADER JOE'S トートバッグ ｜ ¥1,000 w/tax

ファッション業界にも愛用者多 トレーダージョーズのトート

都内の意識高い系やアメリカ在住経験者、そして何よりファッション業界の人にも多い「トレーダージョーズのトートを使う人」。米・西海岸を中心に展開するオーガニックのスーパーですが近年ライバルの「ホールフーズ」がアマゾンに買収されたため、よりその存在感と価値は高まっています。そんなトレーダージョーズの中でも編集長・村尾隆介のセレクトで、今回はこのトートをどうぞ。ダーク目な装いのアクセントに。

ぜひ、企業単位で購入して職場で使ってください。

本誌を複数購読していただき各部署で読んでいただくのもオススメです。

BACK NUMBER ラックの活用もオススメです。
（専用ラックも販売予定）

>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください

#002 Original Unverpackt ミニポーチ ｜ ¥600 w/tax

ゼロクロ誌・第0号で紹介
独・無梱包スーパーの小袋

ホテルに泊まると洗面台に置いてある小さな手を洗う石鹸。袋を開けて使ったとしても、それは滞在期間中数回のこと。余ったものがゴミになるのは、あまりにもモッタイナイ！ そこでアメニティバッグに忍ばせてほしいのが、こういった小袋。これは前号のゼロクロニクル誌で紹介したドイツ・ベルリンの無梱包スーパーマーケットのオリジナル商品。これに入れて使いかけの石鹸を持ちかえれば地球も石鹸も声をあげて喜ぶはずです。

>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください

#003 HYDRO PHIL ハブラシ ｜ ¥700 w/tax

脱・プラ時代のドイツ
これがリーディングブランド

特集で登場したベルリンの梱包ゼロのスーパーをはじめ、ドイツのイケてるショップでよく見かけるハイドロフィルの歯ブラシ。脱・プラ時代のドイツにおいて、このブランドの存在感は、とても大きいです。持つ部分の素材は竹。抗菌加工してあるので湿度も心配無用です。ヴィーガン仕様で動物由来のものは何も使っていませんし、製造の行程においてもウォーターニュートラル。つまり実質的に製造に費やす水はゼロということ。なのに、この発色の美しささと、優れたプロダクトデザイン感（塗料も自然や人も傷つけないもの）。小さな商品に大きな配慮。上司がギフトで部署に配り、同じ歯ブラシでランチ後にハミガキ。『ゼロクロ』が見たい景色です。

>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください

#004 Pela スマホケース ｜ ※参考商品（販売はしていません。紹介のみ）

もっとも身近なプラ製品を、100% 自然に還るスマホケースへ！

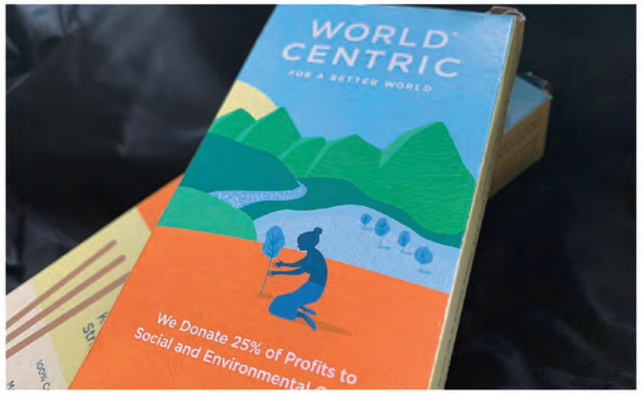
多くの方は、ペットボトル飲料を飲まない日はあっても、スマホを持たない日は無いのではないだろうか。もはや必需品と言うよりも、体の一部と化したスマートフォン。カナダのスタートアップ企業Pelaが作ったスマホケースは、植物由来の素材が使われており環境に害を与えることなく100%堆肥化が可能です。2018年のレポートによるとこのスマホケースの販売により19.3tのプラスチック廃棄物を防ぐことができたことになるそう。肌馴染みの良いナチュラルカラーのバリエも豊富で、ふつうに持っていてもオシャレ、かつエコフレンドリーなら持たない理由がない！ マイボトルやマイバッグを持ってゼロウェイストなつもりでも、プラ製スマホケースを握りしめていたらカッコ悪いかも！

https://pelacase.com

#005 WORLD CENTRIC 紙ストロー ｜ ¥500（一箱50本入り）

パーティシーズンと春夏の来客 そこで出すなら断然紙ストロー

日本にも急速に浸透しつつあるストローの脱プラ化。東京のカフェ等でも自然に還る素材や紙ストローが目立つようになりました。ならば、あなたの会社の来客や、あなたの会社のイベント時にも！ それだけで、あなたの会社の印象が変わります。先進的な考えを持つ会社と思われ、それは採用などにも作用します。このFSC認証を受けた紙でつくられたストローは売上の25%が環境保全へ。ひと箱に50本入っています。



>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください

#006 ACTIVATED CHARCOAL デンタルフロス ｜ ¥800 w/tax

ヴィーガンはじめる前に
ヴィーガン仕様のデンタルフロス

食べ物に限らず海外ではヴィーガン仕様の商品が日々生まれています。動物由来のアブラを使用していないということなのですが、それはこのデンタルフロスにも適応。すなわちヴィーガン仕様です。日本の歯科医にも勧めたらびっくり！「おもしろいね！」と早速仕入れていました。パッケージも環境に配慮。何といってもデザインと色合いがすてきです。イタリア製。デンタルフロスの習慣がある人もない人も、一度試してみてください。

>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください

梱包について

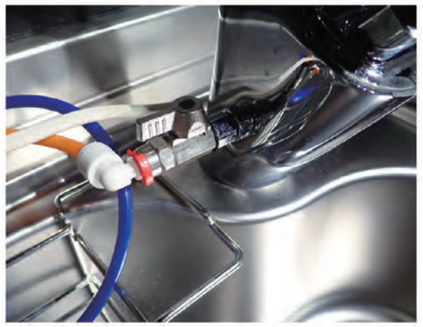
＊梱包について
商品はすべて環境配慮のため
REUSEパッケージで
発送します。

＊宅配業者について
「ゴミをいちばん出さない」
を基準にパートナー企業も選んでいます。
（常に社内で話し合って決めています）

#007 ウォータースタンド ｜ ※参考商品（販売はしていません。紹介のみ）

水を買う時代から
水を「家庭でつくる」時代に

これからの考え方として「お水をつくる」がオススメです。マイボトル率もかなり増えたのはとても良いこと。しかし、その「中身」は？ お茶や紅茶、コーヒーを持ち歩く人は多いですが、やっぱり水が基本。でも、ミネラルウォーターを毎日買うのはそれなりの出費…。安全で美味しい水を安価で飲むには？それを叶えてくれるのが「ウォータースタンド」。NASAが技術特許を持つ『ナノアルミナ繊維』のフィルターや活性炭を搭載していて安心な上に美味しい「水をつくる」ことができます。



https://waterstand.jp